

目標達成計画

作成日：令和5年11月17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	【地域との交流が減少し、地域密着型としての意味合いが薄れてきている】4年前のコロナ感染症拡大から地域との行事が年間46回から0回となり、今年度も7つの行事とコロナ前に比べ2割弱程の開催数でした。今後は、地域にさらに根付いた施設であることの再構築が課題です。	【地域との交流再開による繋がりを大切にす】コロナ前に行っていた地域行事への参加やボランティアの方々との交流を再開することで、利用者様が地域と繋がって、いつまでもその人らしい暮らしや笑顔溢れる日々になるように支援します。	①学頭地区や荘原地区の地域の方々とコミュニケーションを常に図ることで、様々な行事に参加させていただきます。 ②楽器演奏や子供達との交流を行うことで、利用者様の笑顔を引き出す支援を行います。	12ヶ月
2	19	【家族との繋がり】家族との繋がりは、コロナ前に開催していた家族会が中止となり、好評だった家族会での情報交換会が出来なくなったことにご家族同時の横の繋がりがなくなってしまった。利用者様を家族-職員が一枚岩になって支える為に、ご家族が交流する場の設定が課題です。	【家族との絆を深め、全員で利用者様を支える】利用者様-ご家族一緒に取り組む機会を作り、ご家族同士で情報交換出来る場を作ることで、利用者様をご家族-職員が一枚岩となって支える仕組み作りを行います。	①家族会を再開して、利用者様-ご家族と一緒に交流する場を作ります。 ②ご家族同士で悩みや施設への理解を深めてもらう機会を情報交換会の場を作ります。 ③家族向け勉強会』を定期開催して信頼関係の構築を図ります。	12ヶ月
3	14	【他施設との横の繋がり】他施設との繋がりでは、コロナ感染拡大以降は他施設との交流が減少しており、横の繋がりが少なくなっている。今後地域密着型サービスとして斐川地域をより盛り上げる為にも、グループホーム間のコミュニティを構築する機会を作ることが課題です。	【施設交流によるネットワーク作り】他施設と交流を図ることで、利用者様や職員のネットワークを構築でき、さらに施設訪問をして支援内容や取り組みを学ぶことで双方の施設がサービスの質の向上を図ることができます。そのことで、斐川地域の福祉サービスも向上します。	①斐川地域のグループホームとの相互交流の機会を作ります。 ②各専門職(介護支援専門員・介護福祉士・実務者研修修了者)が各々の役割に沿った研修会に参加し、交流することでコミュニティの幅を広げます。	12ヶ月
4	13	【定年まで働ける人材育成と仕組み作り】現在、入社3か月間のOJT研修を行うことで、3か月以内の離職率0%でありましたが、それ以降の離職率が安定していない為に定年まで働けるような仕組み作りをすることで安心して職員が働ける仕組み作りが課題です。	【職員誰もが安心できる職場作り】定年まで職員が安心して仕事出来るように、職場の環境作りを整備し、キャリア別に定期的な研修制度を作り上げることで不安なく働ける長期的な人材育成の仕組みを構築します。	①入社後のOJT研修制度を3,6か月,1年,2年,3年と節目ごとに仕事の振り返りができ、不安なく前向きに仕事出来る研修制度を作ります。 ②キャリア別(勤続年数ごと)にテーマを設定し、ケアや介護技術の向上が出来るキャリア別研修制度を作ります。	12ヶ月
5	12	【人材採用の強化】当施設の認知を拡大する為にもSNS(Instagram)の活用やウェブサイト開設し、施設イメージアップと「働いてみたい」を喚起した情報発信を行っている。今後は、安定した人材採用を行っていくことが課題です。	【時代に合った情報配信による人材の採用】SNSを活用して介護経験者や未経験者が「働いてみたい」と感じてもらえる施設イメージアップを図ることで、安定した人材の採用を行います。	①SNS(Instagram・自社ホームページ他)の定期配信による施設内の風土を理解してもらい、安心した施設であることの訴求を行います。 ②短期的でなく、長期的に求人活動を行うことによる定期的な人材採用を行います。	12ヶ月